



No. '22-4

(No.111)

Oct. 2022

ISGG NEWSLETTER

伊東市善意通訳の会

C O N T E N T S

1. 源頼朝は冷血非常な人だったか	会員 菊池 善次郎	2
2. 第2回英語講演会を終えて	会員 堀江 フジ子	6
3. 「ちゃつきり節」と「伊東音頭」	会員 小西 恒男	9
4. 東の国と西の国	会長 稲葉 尚子	14
【事務局便り】		16
【編集後記】		17



Elenaさん 歓迎会

源頼朝は冷血非情な人だったのか？



会員 菊池 善次郎

NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」はいよいよ最終章を迎えています。何しろ当地伊豆地方の弱小豪族だった北条氏が源氏の棟梁源頼朝を利用して日本の^{まつりごと}政を司る頂点となり（と云う見方もあるのでは？）150 年もの長きに亘り続いた鎌倉時代（その一部）の話、毎週興味を持ってテレビを見ています。

ドラマの前半部（7 月頃まで）は源頼朝を中心に物語が展開されていきましたが、特に印象的だったことは源頼朝の『殺せ！』『首をはねろ！』の命によって大勢の重臣、側近、親戚、兄弟、その子供まで多くの人達が殺され粛清されていったことです。しかも残酷な殺し方によって。

先ず頼朝旗揚げの時関東武者を頼朝軍の味方につけさせ源氏を勝利に導いた立役者、重臣中の重臣^{かずさのすけひろつね}上総介 広常が謀反の疑いありとして御家人達の眼前で無残に殺されてしまいました。余談ですが俳優佐藤浩市さんの演ずる上総介広常が殺害されるシーンを見たテレビ視聴者からは「残酷！ あまりにひどい！ むごい！ 可哀そう！ 涙が止まらない！」と云う何百ものツイートの声があったそうです。

頼朝の従弟に当たる^{きそよしなか}木曾義仲（源義仲）は朝廷、頼朝との三つ巴の中で結局は頼朝の命令一下、宇治川の戦いで命を落とすことになりました。彼の子供の^{みなもとよしたか}源 義高はもともと人質として頼朝の館に暮らしていましたが「父の仇！」とばかり頼朝が命を狙われるのを恐れ彼もまた殺されてしまいました。頼朝の娘と結婚の約束までしていたと云うのに。そしてまた実際に義高を殺す役目を仰せつかった^{とうないみつづみ}藤内光澄と^{いちじょうただより}一条忠頼という側近も頼朝の命で殺されてしまいました。

源氏が平家を滅ぼす為に現場で実際に戦った立役者、頼朝の弟の^{みなもとのよしつね}源 義経は彼も又平家を滅ぼした後兄頼朝への謀反の疑いありと奥



源頼朝像 (historynavi.com よりコピー)

州に追いやられ、そこで殺されてしまいました。義経を殺すのに直接手を下した奥州藤原泰衡^{ふじわらのやすひら}は頼朝の命で自分の家臣である河田次郎^{かわだのじろう}によって殺されました。そして泰衡の首を頼朝に届けに来た河田次郎もまた頼朝に首をはねられてしまいました。

源頼朝の異母弟にあたる源範頼^{みなもとのもりより}は「曾我兄弟仇討騒動」の一件で頼朝に対する「謀反の心あり」と疑われ伊豆修善寺の畑で静かに暗殺されました。

さらに当地伊東の領主伊東祐親^{いとうすけちか}と彼の息子伊東祐清^{すけきよ}は鎌倉幕府成立 2 年後頼朝により殺されました。

頼朝に謀反の疑いをかけられた者や政^{まつりごと}に邪魔と思われた者はことごとく粛清されました。

初めて鎌倉に武家政権を成立させ^{まつりごと}政^{まつりごと}を安定的に行っていく為とは云え、あまりに多くの人が血も涙もなく頼朝の命で殺されていきました。

・・・と言う「鎌倉殿の 13 人」前半部分のドラマに描かれた源頼朝像でしたが、実際源頼朝はこの様にいつも血も涙もない、冷血非情な人だったのでしょうか？

いやいや、必ずしもそうでもなかったのでは？とも思います。人間味もあり、情もあり、受けた恩義はちゃんと返すと云う話もいくつか聞くところです。

例えば当地伊東に残る『産衣石^{うぶぎいし}』の話。伊東自然歴史案内人会のガイド講習で勉強し多くの皆さんがよく知っている話なので、ごく簡単に記します。源頼朝が流人として伊東で過ごした時（韮山へ移る前）、伊東の領主伊東祐親の娘八重姫と恋仲となり、やがて愛の結晶として千鶴丸が生まれました。伊東祐親はびっくり仰天、平清盛からの「監督不行き届き！」の咎めを恐れ千鶴丸を伊東を流れる大川の上流で殺してしまいます。遺体は川を流れ下って海に出て、伊東富戸地区の海岸に流れ着きました。そこで千鶴丸の遺体を発見した富戸の漁師甚之右衛門さんは海岸の大石（産衣石）の上に遺体を横たえ髪や着ていたものを整えてやり、丁寧に供養し弔ってやりました。時は流れ源頼朝が鎌倉初代将軍になってからその話を知り、さっそく甚之右衛門さんを鎌倉に呼び寄せ心からお礼を云ったということです。恩賞の沙汰として「生川（うぶかわ）」と言う「姓」と高級な「茶器」を与えたと云うことです。当時恩義のお返しとしての「姓」と「茶器」のお礼はかなり心よりのお礼ではなかったのではと思われます。

中伊豆（伊豆の国市）の成願寺と云うお寺にまつわる話として以下の様な昔話もあります。昔ばなしの本としては見たことがありませんので知らない方が多いのではないのでしょうか。以下、昔ばなし風に書きました。話の筋はそのままに、表現は独断で「たぶんこうだったんじゃないか劇場」的に書いた部分があります。源頼朝が昔受けた恩義は決して忘れなかった話の一つです。

“餅売りの^{おうな} 姫”（おもち売りのおばあさん）

今から 850 年近く前の話です。源氏の大將源義朝と平家の大將平清盛が戦い源義朝が負けて源氏は滅びました。そして義朝の子源頼朝（後の鎌倉幕府初代将軍）は伊豆の蜷山に流刑となり、そこで頼朝は幼い頃を過ごしていました。蜷山の近くには三島明神（現三嶋大社）と云う神社があり、頼朝は源氏の再興を願って三島明神に参詣する日々を送っていました。

明神神社への道筋に一軒の茶屋がありました。そこで一人の^{おうな} 姫がやわらかい草餅を売っていました。頼朝はときどきその茶屋によってひと休みし、草餅を食べるのです。姫はどういうわけか頼朝を気にいり、自分の息子の様によくかわいがってくれました。



イラスト：筆者

「お武家さまは、いまにきっと立派になられますよ。そしていつか平家を倒すことができますよ」姫はいつもそう云って頼朝を励ましました。「有難う」頼朝は礼を云い、そして「よし、やるぞ！私はやるぞ！必ずや

るぞ！」と心に誓うのでした。

時は水の流れのように移り過ぎていきました。1180年頼朝は伊豆で兵を挙げ、首尾よく平家を倒し鎌倉に幕府を開くことができました。そして鎌倉幕府初代将軍として日本を治めました。

菰山の餅売り姫は、頼朝の出世を我がことのようによろこんだのは勿論です。

「よかった、よかった、さぞりっぱな大將軍さまにおなりなさったろう」とひとりつぶやくのでした。

そんなある日のことです。数人のいかめしい鎌倉武士が、菰山の姫の店先に馬でのりつけて来ました。

「わしどもは鎌倉將軍のじきじきの使者として参った。そちは、餅売りの姫であろうな？ 將軍さまがそちのかつての親切に褒美をとらせたいとお召しじゃ。はやくしたくをしてください」

店先にはちゃんと立派な駕籠が用意されていました。

「めっそうもございません！私はただ……」

姫ははじめ余りの有難さに戸惑って駕籠に乗るのを躊躇していましたが迎えの武士の再三の勧めに恐る恐る籠の人となり、鎌倉に向かいました。

こうして餅売りの姫は鎌倉に着き頼朝と会うことができました。

「姫よ、たっしゃであったか。よく来てくれた。私は伊豆にいる頃のそなたの親切を忘れはしない。そなたが励ましてくれたお陰で平家を倒すことが出来た。今日はそなたに褒美をとらせたい。何なりと申すがよい」

頼朝は姫に言いました。

「めっそうもございません。わたしに何んの望みがございましょう、お声をかけていただただけで、それは、それはうれしくて……」

「いやいや、なんなりと申せ、わしからのほんの気持じゃ」

頼朝の再三のお言葉に姫は有り難く応えることにしました。

「もったいないことでございます・・・・。それでは
お言葉に甘えて一つだけお願いがございます。韭山にお寺
を建てていただきたくぞんじます」

「よし、分かった。直ぐにお寺を建てようぞ」
こうして韭山の原木というところに立派なお寺が建てられ
ました。お寺の名前は「成願寺」。曹洞宗のお寺で今尚健在
しております。 おしまい。



現在の成願寺（伊豆の国市韭山）

第2回英語講演会を終えて



会員 堀江フジ子

2020年、まだパリにいたと思っていたモニカから久しぶりにメールが届いた。

これがきっかけとなり第二回の英語講演会開催へと結びつきました。

以下メールの内容の一部を紹介します。

I hope you are doing fine these days, and adapting to the new Corona normal.

I have some news! I finished my PhD and have started my post-doctoral work at UTokyo. I was
waiting for the pandemic to subside so I could come and see you in
person, but it looks like the pandemic will last a while. Maybe we could organize a virtual ISGG?

Looking forward to seeing/hearing you soon,

Monica

2021 年 10 月 4 日、ISGG のミーティングにモニカが来てくださり 9 年ぶりの感動の再会、第二回目の英語講演会プレゼンターをお願いした次第です。

モニカは現在、東京大学神経知能国際研究機構の日本学術振興会特別研究員のポスドク、第二言語を学ぶための学習情報を得るサイト「kotoboo」のメンバーでもあります。



講演テーマ:外国語をマスターしよう:簡単に楽しく:

当日の参加者は会員入れて 57 名でした。

私は一番後方の席でモニカの明るい声と、きれいな発音に参加者が引き込まれていく様子を確認しました。結論から先に申し上げると非常に興味ある内容でした。ただ、私にとっては難しい内容もありました。特に、**研究課題:「社会環境における幼少期の言語習得」ゲーム、図形+テキストはト画像を見て火星語が理解できたか、できなかったかの自信度チェックでしたが答えるべき「問い」は何か？**理解できませんでした。私だけかな？

クロージングではテーマに沿った具体的な説明があり、又参加者からも質問があって良かったです。57 人それぞれに違った感想があると思います。友人の一人は、英語スピーチは全部理解できなかったが英単語のスペリングが頭に浮かび楽しかったと言ってくだった。**Nuerointelligence** って何？全然知りませんでした。高度な研究に触れられたことは意義深いものでした。ある本によるとスウェーデンの老人ホームで外国語学習を設けたら老化しにくくなったそうです。スゴイ！！後日、モニカに感想を聞きましたら「高校生が参加してなく残念だったが全体的にとっても楽しかった」と述べられました。モニカのチームの活動を詳しく知りたい方は <https://kotoboo.org> にアクセスして下さい。モニカがキラキラと輝いて夢が実現することを祈念いたします。今回のプレゼンテーションの窓口になりお骨折りいただいた主原さんに感謝申し上げます。

伊東市善意通訳の会 第2回英語講演会

2022年10月2日 伊東市観光会館にて

講師 Monika Barbir PhD



聞く、話すから挑戦を

善意通訳の会
英語講演会
バーベアさん(元ALT)語る

伊東市善意通訳の会 高、東部特別支援学校のに続いて、単語(総業尚子会長)は2 伊豆高原分校でも指導を覚える能力は年齢に日、第2回英語講演会し、現在は東京大ニュ関係をなく維持すると説を市観光会館で開いた。元外国語指導助手(ALT)で2010年8月から3年間、伊東市高城ヶ崎分校などで英語を教えたカナダ出身のモニカ・バーベアさん34が「外国語を簡単に楽しくマスターしよう」をテーマに講演した。

バーベアさんは熱海

国際研究機構で言語を覚える仕組みを研究し、書く、聞く、話すのどれを優先すべきか」と講演ではゲームを交え、年齢と言語習得の関係を解説した。若手の方が文法を学ぶ、話すは難しいので

出席者から「読む、書く、聞く、話すのどれを優先すべきか」と質問されると、バーベアさんは「日本は読み関係性を解説した。若手の方が文法を学ぶ、話すは難しいので

伊豆新聞より



スライドを使って説明するバーベアさん
伊東市観光会館



「ちゃっきり節」と「伊東音頭」



会員 小西 恒男

「唄はちゃっきり節 男は次郎長 花は橘 夏は橘 茶の香り ……」で知られる『ちゃっきり節』は静岡の唄として全国的に知られている。この唄は今日では静岡県の代表的な民謡であると思っている方が多いと思われるが、実は静岡鉄道のコマーシャルソングとして作られた唄であることを知る人はそれほど多くない。

昭和 2（1927）年、静岡鉄道（当時静岡電気鉄道）が「狐（きつね）ヶ崎遊園」の開園を記念して北原白秋に作詞を依頼して完成した珠玉の名編である（作曲は町田嘉章）。

この唄を初めて聞いて感動したのが木下杢太郎の兄である太田賢次郎（当時静岡県会議員）である。ちゃっきり節は鉄道沿線の観光と物産を広く紹介する内容で 30 番の長きにわたる。

白秋は杢太郎の盟友で、伊東にもたびたび来ており賢次郎も白秋をよく知っている。賢次郎が「白秋に伊東のちゃっきり節版を作ってもらい伊東をPRしたい」と考えたのは自然の成り行きであろう。

伊東に帰った賢次郎は自分の考えを関係者に伝え、特に杢太郎を使って白秋に伊東のPRソングを依頼をした。そして昭和 4 年 1 月、白秋を伊東に招待し 1 週間以上かけて詞の内容を練ってもらい、さらに町田嘉章に作曲を頼み、最終的に「伊東音頭」が完成する訳である。

伊東音頭の誕生について述べる前にちゃっきり節について少し紹介したい。

ある日東京・谷中の白秋宅へ一人の男が訪ねた。静岡電鉄 遊園部長 長谷川貞一郎の名刺を持ち、「静岡から清水への沿線に新しく「狐が崎遊園」がオープンすることになったので、その完成記念に白

秋先生にぜひ唄を作ってほしい」とのことであった。しかし白秋は面会を断った。その後も長谷川は数回にわたり白秋宅を訪れたが、面会を果たすことができなかった。

さらに半年の後、知人を通して白秋と親交のある正宗白鳥に紹介状を書いてもらい、やっと白秋に面会することができた。しかし面会は出来たものの肝心の要件は承諾してくれない。長谷川は何時間もかけてお客から親しまれる唄の必要性をじっくりと熱意をもって説明した。白秋は長谷川の熱意に感動し、唄を作ることを快諾した。

昭和2年白秋は作詞の取材のため静岡市を訪れた。様々な階層の人々に接することによって、少しでも静岡独特の人情風俗に触れ、詩想と結びつく言葉や話題などの知識を得ようとした。

ある日の日暮れ時、田んぼに囲まれたある遊郭楼で酒を飲んでいた時、土地っ子芸妓が2階の障子を開けながらつぶやいた言葉に思わず耳を傾けた。『きゃある（蛙）がなくて 雨づらあよ！』

安部川の土手まで広がる一面の田んぼからは、湧き上がるようなカエルの大合唱が聞こえてくる。そのなき声を聞いて土地っ子まるだしの方言で《こんなにカエルがなくなんだから、たぶんあしたは雨になるでしょう》とつぶやいたのである。これがちゃっきり節の各章にくり返し使われる「囃子ことば」になった。

また作曲者の町田嘉章との出会いは面白い。白秋が静岡に行く日、東海道線の列車内でばったり会ったのである。彼は仲間と九州への演奏旅行の途中であった。白秋はここで嘉章に静岡鉄道の話をして作曲を依頼する訳であるが、全く不思議な縁である。

鳴り物入りで作られたちゃっきり節であったが、その後静岡や清水の料亭のお座敷で歌われる程度でそれほど広く歌われはしなかった。

それが全国的に大流行するようになったのは戦後になってからのこと。市丸（芸者）がレコードに吹き込んで少し知られるようになった。昭和32（1957）年、国体が静岡で開催され、開会式で静岡婦人団体が披露した「ちゃっきり節」の踊りと唄は全国各地から集まった役員や選手に強い印象と感動を巻き起こした。そして昭和36年には「週刊サンケイ」（週刊誌）の全国民謡人気コンクールにおいて、断然トップの栄冠を獲得、「ちゃっきり節」の名声は、いまや天下にとどろき渡ったのである。

昭和 41（1966）年、「ちゃっきり節」誕生 40 周年を記念して富士山と茶畑を望む名勝日本平山頂にちゃっきりぶし民謡碑が建てられた。（写真）



【伊東音頭の誕生】

昭和 4 年 1 月、太田賢次郎に伊東の唄の作成依頼を受けた白秋が伊東にやって来た。伊東町が用意した「東京館」（現在のラフォーレ伊東）に宿泊して創作活動を行うことになった。白秋の滞在中、町は河野仁という人を付き人に指名して白秋の身の回りの世話をさせた。

白秋は最初のうちはあちこち出かけては伊東の自然、歴史、風俗、習慣などを熱心に見たり、聞いたりしていたが、そのうち外出も止み昼間は何もしない、夜になると酒を飲んで時間を費やすようになった。1 週間がたち 10 日経っても進展はなかった。

11 日目に大事件が起こるのである。河野氏の手記を要約する。

11 日目の朝、部屋を覗いてみると白秋がいない。洋服もない、宿にもいない。河野氏は青くなってあちこち探しあぐねているうちにとんでもない事件が発生した。

宇佐美のミカン山を通ったお百姓が駐在所に駆け込んで来て「ミカン山に人が殺されている」と。

先生探しをしていた伊東署も驚いて宇佐美へ飛んで行った。

河野氏は一瞬「白秋先生が心臓発作で倒れたのでは」と思ったが、「先生が一人で宇佐美に行く筈はない」と思い直しつつ自動車で宇佐美に向かった。

実際に死人と思われていた人は白秋であった。お百姓がそばへ寄りつかず急報したために殺人事件

に発展してしまった。

周りの世話役を嫌って宿を逃げ出した白秋は、宇佐美の山の中どころがって想を練っていたのである。

人々の騒ぎに何事と白秋本人はあきれ顔。警官も気が抜けてポカン。やっと一件落着。

白秋は河野氏の車で宿へご帰還。その車中で「河野君、唄が出来たよ」。

翌日白秋は詞の原稿を持って東京へ帰って行った。東京では詞の校正を行い、タイトルは「ザブラン節」から『伊東音頭』に変更した。町田嘉章の作曲により伊東音頭は完成した。

余談であるが、日露戦争で名を挙げた東郷平八郎元帥は夫人のリュウマチ療養のため、昭和4年伊東に別荘を建てている。伊東をこよなく愛した人でそれまでは伊東の滞在先は「東京館」であった。

また、河野仁氏は後に旅館「いでゆ荘」のオーナーとなった人である。

昭和44（1969）年8月、「伊東音頭」作詞40周年を記念して碑が伊東市によって建立された。

場所は渚町の観光会館別館前（写真）



【伊東音頭】

伊東音頭は伊東市を紹介するご当地ソングで24番まである。詞は前半7・7調、後半7・7・5調で、全編に共通の囃子ことばが入る。

1番は次のような調子である

伊東湯どころ ひがしの海に (7・7調) ヨホホイ (囃子)

朝はゆらりと 潮にゆらりと 日が昇る (7・7・5調)

(以下同じ) 「ザブランらんては 波の音 トロロンとんてば お湯の音

山ではしいたけ みかんに たちばな トノホイノホイホイ」

以下24番まで続く。昭和の初め頃、伊東ではどのようなテーマが注目されているか垣間見ることができる。全部は紹介できないが事象や場所について一部分を紹介する。

- ・ 初島は水仙島、島の女神は初木姫
- ・ 手石島と予想島
- ・ 瓶山の財宝伝説 (伊東家の隠し財産)
- ・ 行こか闇夜の尻つき祭り (音無神社)
- ・ 何が詫び証 天狗のおぬし (佛現寺)
- ・ 葛見楠でかいだろにも (葛見神社)
- ・ 猪が髪ゆって お湯に来た (猪戸の元湯)
- ・ お馬どこ行く 湯は出て余る (お馬の湯)
- ・ キャデイ可愛や 空見てかける (川奈ゴルフ場) など

最後になるが次のような詞が書かれているので紹介する (19番)

裸揉みなら 御座船神輿 (ヨホホイ)

嫁っこほん投げりゃ 海にほん投げりゃ 船卸し (以下省略)

この詞は漁業にまつわる伊東独自の伝統行事で、「ぶっこみ」と呼ばれている。

江戸時代から行われており、昭和30年代まで続いた行事である。

漁師の網元が新しく船 (カツオ船) を建造する。昼間は船の安全を祈って様々な儀式を執り行う。

一連の儀式が終わって落ち着いたころ、突然船の若い衆が多数網元の家に入り込んで来て、網元の奥さんをさらって行き、そのまま海岸に運んで海に放り込むのである。大変荒っぽい振舞であるが、船の航海安全を願う伝統的な儀式である。

北原白秋の伊東音頭が作られて今年で95年となる。残念なことであるが多くの伊東の人も伊東音頭

を知らないし、聞く機会も少ない。

最近になって伊東音頭を広めようとするグループが現われたとの嬉しいニュースを耳にした。伊東紹介の良い材料と考えて伊東音頭を大いに利用したいものである。

東の国と西の国



会長 稲葉 尚子

先日、NHK でピアニスト、ブーニンのドキュメントを放映していました。

19 歳でショパンコンクールに優勝し、日本でも「ブーニンフィーバー」

を巻き起こした彼が、その後、肩の故障、病気等により演奏できなくなり、それでも別の観点から大事な音楽に関わっていくというドキュメントで感動を受けながら見ましたが、今まで記憶のかなたにあったものが呼び起され、思い出すままに書いてみたいと思います。

ロシア人ブーニンは西側の国でコンサートをすることも多かったですが、絶えず保安警察がついて監視されていたと言います。

私が 20 代の初めの頃、(1980 年頃) 国際コンクールで日本人の友達とイタリアに行きました。

そこには多くの国からピアニストの卵が来ていましたが、ソ連からも 3 人参加していました。彼らはいつも先生のような人と一緒に、私たちはとても羨ましく、「先生がコンクールに付いてきてくれるなんていいわねえ。」と話しかけました。(たぶんつたない英語で) すると、「違う！彼は見張り人！私たちが逃げないように。」「私たちは一年の内にノルマがあって、私はこのコンクールで賞をとらなければ、ピアノは弾けなくなり、一生掃除人として暮らさなければならない。」と厳しく言われ、あっけにとられたことがあります。

それからしばらくして、大学のバス旅行があり、プラハに数日行けることになりました。短い間だからと、私は小さな肩掛け旅行鞆で出かけたのですが、バスに乗り込んできたドイツ人は皆大きな海外旅

行用の鞆を持っています。私が驚くと、「今は空っぽだけど帰りがね。」とにやにやしています。国境が近づいた時バスの運転手が「今から両替しますから希望のマルクを持ってきてください。」と言い、ドイツ人たちが「沢山替えちゃだめだよ。レートがいいから。」と言ってくれたので、私は、ドイツ生活水準の半額位を両替しました。すると返ってきたのが札束！目を丸くしていると、「ここだけのレートだから口外なし。」と言われ、ドギマギしながらもお金持ち気分でプラハに着きました。

プラハは素晴らしく美しい街でドイツ語も通じるし、楽しい日々を過ごし、帰国の前日になって、お金がいっぱい余っていることに気づきました。ボヘミアグラスが欲しいと思っていた私は色々な素敵な店に行きましたが、どこも「マルクかドルでなければ売らない。」と言われ、食料品店に行くと、陳列台に缶詰1つとかで物が全くなり、音楽店に行って、楽譜とレコードを手あたり次第山のように買い求め、入れるバックも買いました。その買い物の途中で周りの人の冷ややかな目に気が付きました。大勢の人が一枚のレコードを買うのに色々迷っていたのに、私が目につくものをすべてレジに運んだからです。きっと嫌な気分を与えてしまったと思います。

そして、帰りのバスの中。国境に着く前にバスの運転手が「酒を買った人いる？買ってない人は皆2本ずつ買って私がまとめて持っていることにしてくださいね。」と。バスの中の大量？の酒はこれで税関をフリーパス。でも国境での検査の厳しさはすごいものでした。全員が外に出され、周りを軍用犬に



プラハの街角で

囲まれ、バスの中の座席を上に向けて誰もいないことを確認し、一人ずつ長い時間かかってパスの写真と合致するかどうか確認作業しバスに乗ることを許可されるのです。これは亡命者がいないかどうかの検査なので、日本人の私は問題ないのですが、パスの写真にひげがなくて、後から生やした人などは綿密に調べられていました。

たった数日の滞在でも東の国と西の国を隔てているものをいやというほど感じさせられ、プラハの美しい街並みより、そちらの方が記憶に残っています。

それから後にコンクールの伴奏者としてプラハに2週間位滞在して、その時も食べ物で随分苦労したのですが、それは、1980年頃のお話。

ベルリンの壁やソ連が崩壊し、今は全く事情が違うでしょうが、でも、自分のいる国の常識では考えられないことがあたりまえで起こっている国が多いということはいつも頭の片隅にあります。

冒頭に書いたブーニンさんはドイツに亡命し、日本人女性と結婚し、ドイツと世田谷を行ったり来たりしながら生活しているそうですが、言葉にできない苦労が沢山あったことと思います。彼の幸せを心から祈ります。

【事務局便り】

暑い夏がやっと終わったと思ったら昨今はセーターが必要なほど寒くなります。 イギリスでは3人目の女性首相が選ばれたと思ったら超短命で今度はインド系の首相の誕生です。

アメリカの中間選挙もすぐですし、世の中、目まぐるしく動いていますね。

さて、我々の会でもガイド活動はまだ動き出しませんがいろいろな活動を行っています。

まず、7月17日から18日にかけて明星大学の田中教授のゼミで十数名の学生が伊東を訪問しました。 その中にはジョージア、ハンガリー、ルーマニア、ウクライナの学生も含まれ伊東国際交流協会の主催で彼らの歓迎会、市内観光案内、故郷紹介プレゼンテーション、ホームステイを行いました。 これには当会の会員も多く尽力しております。

10月2日には東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構特任研究員の Monica Barbir さんを講師に迎えて第2回英語講演会を開催しました。 会場の入場制限いっぱいの60余名の参加でにぎわいました。

10月25日にはHollyさんの後任として伊東高校に赴任したElenaさんの歓迎会を行いました。 熱海高校ALTのEthanさん、伊東商業ALTのKatieさん、東伊豆町ALTのBrittanyさんも参加し、にぎやかで楽しい時間を過ごしました。

又、11月6日伊東観光会館別館で開催される国際交流フェスタには当会も参加しております。 ぜひご家族、お友達にもお声をかけてご来場ください。

【編集後記】

菊池さん、毎度ご寄稿ありがとうございます。

この度の「源頼朝は冷血非情な人だったのか?」、大河ドラマも終盤に近付いて来た昨今、興味深く拝読いたしました。

「産衣石」や「草餅の媼」を読んで、頼朝の aftercare の良さを改めて思い知ったところ
です。菊池さん御自らの脚色なされた昔話風の物語と挿し絵、味わい深いものです。
なんだか草餅が食べたくなりました。

堀江さんの「第二回英語講演を終えて」、先ずは無事講演を催せて良かったですよね。

コロナにも負けず ISGG が活動している証でもあります。

講演会の内容は、おっしゃる通り、私も「火星語」には戸惑いを感じ良く理解できなかった
一人であります。

それでも、モニカさんの明るい通りの良い声ときれいな英語を久々に聞いて、
9年前の英語サロンを思い出していました。

堀江さん、主原さんを始め皆さんのご尽力、ご協力に感謝申し上げます。

小西さんの「ちゃつきり節と伊東音頭」

前回の「みかんの花咲く丘」に引き続き、伊東、静岡に関わる唄をご紹介します。

お書きになったように 白秋大先生の「失踪事件?」とも思しきエピソードもある

「伊東音頭」、苦勞の甲斐あってか何とこの唄、22番まであるのですよ。

私の元職場はその最後の22番目にやっと出て来る「キャディ可愛や〜」であります。

小西さんのお説のごもっとも、もっと「伊東音頭」を耳にする機会が増えたらと
願っております。

稲葉会長の「東の国と西の国」

現在」も大変にな事になっているロシアとウクライナですが、ソ連時代あの頃

もエライことだったんですね。

外国の音楽コンクールに監視員付きで参加とは、考えただけで気が滅入ります。

あと、チェコのプラハからお酒を持ち込む話、そう言えば、1960～70年代、スコッチの12年物が日本国内で1万円くらいしていた時分、免税のウイスキーを少しでも多く持ち込めないかと悪知恵を絞っていた事が脳裏をかすめました。

最後の部分、ブーニン氏が「ドイツと世田谷を行き来」の下りを読んで

「世田谷」が非常に具体的で、実際の出来事なんだと痛感させられました。

皆さんご寄稿ありがとうございました。来年の新年号に向け、皆さんの原稿を心よりお待ちしております。

tk 記(tea & cake)

伊東市善意通訳の会 (ISGG)

会長 稲葉 尚子

(事務局) 413-0232

伊東市八幡野 1324-40 主原 一雄

e-mail : larryn@estate.ocn.ne.jp

<http://itosgg.info/>

(編集委員) 稲葉尚子、曾我廣子、加藤達雄